

---

達成目標

各学部の教育課程に照らし合わせた図書、電子媒体等の資料を体系的、計画的に整備する。小郡キャンパスから日佐キャンパスへの全面移転に伴う蔵書、座席数等の拡充、および学生の学修形態に合わせた柔軟な開館システムを実施する。さらに、情報システムを活用した学外の図書館との連携を推進する。

---

①図書、図書館の整備

小項目

A群 図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他教育研究上必要な資料の体系的整備とその量的整備の適切性

A群 図書館施設の規模、機器・備品の整備状況とその適切性、有効性

A群 学生閲覧室の座席数、開館時間、図書館ネットワークの整備等、図書館利用者に対する利用上の配慮の状況とその有効性、適切性

A群 図書館の地域への開放の状況

「現状分析」

2002年小郡キャンパス（人文学部）が日佐キャンパス（人間関係学部・短期大学部）に統合されたので、従来の二つの図書館が日佐キャンパスで一つの大学図書館となった。これを機に本学に相応しい図書館を構想するために、2003年12月、植松貞夫教授（当時、筑波大学図書館情報専門学群長）に図書館の診断を依頼した。その診断結果を検討し図書館委員会は、以下のことを中期目標と定めた。

- i) 学生・利用者に快適な環境・開放的な空間を提供し利用を促進する。
- ii) 学生の学習・研究活動および教員の教育・研究活動を支援する。
- iii) 活字とデジタル情報を両方使えるハイブリッド図書館、電子図書館としての情報基盤を整備する。
- iv) 近隣の公共図書館とのネットワークを拡大し地域社会への開放を促進する。

(ア) 図書資料等の整備

(a) 大学図書館の統合に伴う図書の整理とその有効利用

図書館の統合を機に重複図書や資料的価値の少なくなった資料約3万冊の除籍を行ない、2004年私立大学図書館協会の寄贈資料搬送事業の補助を得て、中国の新疆師範大学(3,066冊)、タイの College of Asian Scholars Main Library (1,481冊)に寄贈した。その他は大学院研究室や学院の併設施設の生涯学習センター等に配布後、教職員や学生に配布した。

(b) 図書等資料数とそのアクセス

2002年度の統合により日佐キャンパス図書館の蔵書冊数は、約23万冊となった。現在の蔵

書冊数は約 21 万冊、学生 1 人当たりの冊数は 85 冊である。受け入れ冊数、利用状況の推移は表 9-1 および表 9-4 の通りである。

視聴覚資料の収集は人文学関係、語学学習のための資料、心理学関係など各学部の教育課程に合わせて、約 5,000 点所蔵し、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ等により構成している。

図書の配架は、全面開架式書架を取り入れ自由に資料を手にとれる状態にある。また NDC 分類順に和洋混配にし、主題別検索ができるよう配架している。

1997 年より図書館システム「情報館」を導入し、バージョンアップしながら現在に至っている。

利用者 O P A C 4 台のパソコンで結ぶネットワークが形成され、資料管理、事務処理、貸出返却を行なっている。2003 年 6 月大学図書館全蔵書のデータ遡及が終了しデータベースができあがり、O P A C での検索を可能にした。2003 年 9 月には外部へ大学図書館の蔵書を公開し W e b 検索ができるようにした。

#### (c) 図書館予算

図書をはじめとする資料費は、予算要求に対する査定を受け、学院の財政状況や他の予算項目との調整等によって決まる。2002 年度からの資料費の推移は表 9-2 の通りである。

#### (d) 体系的整備

図書資料収集の方針：

資料収集の方針は、年度初め、各学部から選出された委員で構成される図書館委員会において協議し決定し、教授会に報告。この方針に沿って、全教員の協力を得て授業概要に示された参考文献、学習参考書、研究用図書を購入している。各年度の収集に加えて、本学図書館では次のような基本的な姿勢を引き継いでいる。第一に学生のリクエストを最優先に採りあげる。卒業論文や修士論文作成に必要な資料の購入など、学生の学習支援に配慮している。第二に本学がキリスト教主義であることから、キリスト教関係資料の広範囲な収集を基本方針としている。

図書館では基本図書をはじめ各主題分野の入門書・専門書を計画的に収集し、調和のあるレファレンスコレクションを構築するとともに、資料の出版状況等を把握し、学術書、教養書等の基本資料の選択に配慮している。

購入雑誌と電子ジャーナル：

学術雑誌を中心に受け入れている種類は表 9-3 の通りであるが、学部改編に伴い新規の雑誌購入が増える傾向にある。思想・心理学・宗教・英語学・文学の外国雑誌のタイトルが多い。

また、外国雑誌は毎年 10~15% の高騰が続き図書資料費を圧迫しはじめている。2003 年度から外国雑誌購入の見直しを行なっているが、削減はなかなか困難である。

コレクションの公開：

クリスチャンで詩人島崎光正氏の展示コーナーを図書館の 1 階に設け、現在、本学に寄贈された遺稿集を含む貴重な資料の中から約 70 点を展示公開している。

#### (イ) 図書館施設・設備の整備

2002 年小郡との統合による学生数の増加に伴い、日佐キャンパスの大学図書館 1、2 階の増築を行ない、学生数の約 13% に当たる閲覧席 350 席と書架（一部集密書架）を増やした。また図書館診断の助言を参考にして施設・設備の改善に取り組み、開放的な環境・快適で静かな環

境の整備を行なった。まず、建築後 15 年を経過している図書館内の照明を明るくし、くつろげる空間を確保するためにブラウジングルームを拡張した。一方、静かな学習空間を創出するために書架の間にキャレルを配置した。1 階に AV、PC、レファレンス、雑誌コーナーを設け調べ物のスペースとし、2 階は書架での資料検索や学習する空間としている。

そして学習支援の一環としてレファレンス業務の充実のため、じっくり相談できる対面式のレファレンスデスクを設置し、常時対応できる環境を整えた。

次いで、設備の整備として、PC コーナー (10 台)、AV コーナー (8 台) を設置した。その他ゼミ室やパソコン 8 台を設置した学習室を設け学生の利用に供している。

#### (ウ) 図書館利用者へのサービス

##### (a) 図書館の開館時間

2006 年 6 月現在、平日は 20 時、土曜日は 17 時まで開館している。授業終了後も図書館利用は可能である。2005 年度は試みに 11 月末から 1 月末まで、後期試験の準備、卒業論文、修士論文の作成に利用できるよう、平日の開館時間を 21 時 30 分まで延長した。

入館者数等の利用状況の推移は表 9-4 の通りである。

##### (b) 利用者サービスへの取り組み

学院併設の中高図書館と同じ図書館システムで相互協力を行ない、Web 上の OPAC で検索して相互貸借、中高生の大学図書館利用を実施している。

2004 年度後期よりシラバス掲載の教員推薦の指定図書コーナーやテーマを決め展示図書コーナーを設置し、学生への利用案内を行なっている。

2004 年度より年 1 回学生との懇談会を開き、図書館への希望や意見を聴取し館内整備や改善に活かしている。

情報源としてのデータベースを導入して資料検索システムを提供している。例: MAGAZINEPULS、ナレッジワーカー、日経テレコム 21、聞蔵、ジャパンナレッジ、PsyncINFO、MLA 等

2005 年度、近郊のキリスト教教会に本学の特色である「キリスト教関係図書目録」所蔵リストを冊子体あるいは CD-ROM の形で配布し利用案内を行なった。

#### (エ) 図書館の地域への開放状況

2002 年 10 月より福岡市総合図書館の呼びかけで、市内の大学図書館との相互協力ネットワークができ、現在 7 大学と福岡市内の 10 公共図書館が加盟して、福岡市民への専門書や学術書の貸借を行なっている。本学の相互貸借も年々増加している。相互貸借可能冊数は 240 万冊 (概数) である。

2005 年度より福岡県内公共図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館等がネットワークを結び、相互協力が表 9-5 のとおり拡大してきている。本学も参加している。

本学の一般開放状況は、表 9-6 のとおり地域住民や他大学利用者などの利用が確実に増えている。また学内附属施設の生涯学習センター、天神サテライトの受講生の利用も年々増加している。2005 年度は本学の卒業生の利用が多い。

#### 「点検・評価／長所と問題点」

##### (ア) 図書資料等の整備

##### (a) 図書資料の蔵書とアクセス

2002 年度図書館の統合により図書も蔵書が一気に増加した。その対策として 473.36 m<sup>2</sup>の

増築を行ない、座席数を増やし書架も増設したが、現在、退職教員返却図書や教科関係の返却図書が毎年の増加図書と変わらない程あり書架の狭隘化が年々進み、すでに段ボールに入れ別の場所に積み上げ、保管している図書が2万冊ほどある。利用者の資料へのアクセス環境は悪化し、資料の適切な保存もできなくなりつつある。保管書庫建築の検討が2006年度に行なわれることになっている。また、現在の図書館システムは導入して10年がたち、利用者へのサービス機能が不足している。たとえば、WEB上での図書館ポータルを利用した機能の追加や多言語対応などを搭載したシステムへ更新するべく、現在、図書館委員会および学院情報基盤担当部署で検討している。毎年購入する図書や教員からの返却図書の配架に苦慮しているが、今後対策のひとつとして資料の新陳代謝を図り資料の見直しを行なう。また定期的に除籍を進めていくことを念頭に除籍規程の整備をしていく。しかし本学の蔵書の70%を占める人文関係の資料は一概に刊行年が古い等の理由では価値判断ができない。

書架の95%を占めている現状を考えると、遅くとも2年後の保管書庫建築の実現に向けて、図書館委員会としても積極的に学院側に要望していきたい。

書庫の建築により、利用頻度の高い図書と低い図書を分けて別置することにより、資料の有効利用を進めていく。

図書館システムについては、2007年稼働に向けて学内メディアセンターの協力を得て具体的に検討を始めている。

#### (b) 体系的整備

本学図書館は、教育理念のキリスト教に関する資料が豊富である。また英米文学・語学の専門書が同規模の大学に比べ多く、このことは国立情報学研究所の相互協力による相互貸借で裏付けられている。2005年度より相殺システムに参加し一気に利用が増えた。学部学科の改編により新しく図書資料が要求され購入しているが、各学部の教育課程に照らし合わせた図書や電子資料の整備が遅れている現状にある。今後、学部・学科の教育・研究に必要な資料を体系的に整備するため図書館委員会の「選書システム」を活かし、資料の収集を行なっていく。図書館委員会を通して教員の協力を得、学部学科改編による必要な図書資料や教育研究上必読の資料の選書を行なう。図書館側は選書のための情報収集を図り、学生の学修支援、研究支援のための蔵書を構築していく。

#### (c) 購入雑誌の見直しと電子ジャーナル

限られた予算の中で、新しい雑誌の購入要求が増えたこと、洋雑誌の価格の高騰が図書資料費を圧迫しはじめたことから、2004年度、2005年度と購入している雑誌すべての点検を実施した。これは教員の協力を得て、一定の成果を得たが、今後の課題として、冊子体で購入している雑誌を電子ジャーナルの契約へ変更することや論文等のデータベースの導入を検討し、学内のどこからでもアクセスできる環境を整え利用者の利便性に対応していかなければならない。と同時に本学紀要の電子化や既存資料や所蔵資料のデジタル化は、120年の歴史を持つ本学院の資料のデジタル化と共に、全学的に電子図書館を構築していくことが必要である。

#### (イ) 施設・設備の整備

図書館への入館者は年々増加しているが、貸出冊数がそれ程増えていないのはAV、PCコーナーの設置やブラウジングルームの拡張などで、学習目的だけではなく、空き時間を図書館で快適に過ごす学生が、定着していつているのではないかと考える。この点は評価できるが、静かな

学習環境が時には壊されることがあり、苦情が出ることもある。このことは館内にグループ学習室や談話室を設置することで解消すると考える。建築後 15 年を経過した既存の建物の中に、これらの部屋を作ることは難しいが、書架の狭隘化が深刻な問題である昨今、保存書庫を建築して、現有の集密書架を移転することによりスペースを確保できる。ここに学習室等や開放的な空間を作り館内の改装が可能になると考えている。そのためにも保存書庫の建築を実現させたい。現実的には現在の図書館の隣にあるミッションホールを改造して書庫にするか、別に建築するにせよ、2010 年度をめどに保存書庫の建築を実現させたい。

#### (ウ) 図書館利用者へのサービス

開館時間については、2003 年度から 20 時まで延長しているが、女子大学であることや立地利便性、学生の利用実績からみると妥当であろう。2005 年度から開館時間を延長した土曜日は、利用者が従来の 3 倍に増えた。妥当な開館時間の延長といえる。

開館時間の延長については、2001 年度基準協会加盟時に「最終授業終了時間以降も図書館が利用できるよう」との助言を受け 2003 年度より開館時間を 20 時までに延長した。3 年が過ぎ利用者が定着してきている。また土曜日も 17 時までの延長を始めたが、平日の利用と共に効果がでている。昨年度、後期に試みた定期試験時の 21 時 30 分までの延長については、今後検討していく。

教室と図書館を結ぼうという観点から、指定図書コーナーを設けているが、教員との連携を密にし、課題学習やレポート・論文作成等の支援体制を整えつつある。その試みとして課題別のプログラムを組んだオリエンテーションや、必要に応じて学生が自由に参加できるプログラムの利用指導を実施し、利用者の視点に立ったサービスに努めている。

#### (エ) 図書館の地域開放

生涯学習の時代、学習意欲のある利用者が専門図書を身近に利用できる環境を整え、地域に根ざした大学となるよう大学図書館としてサービス向上に努め、地域に愛される大学図書館を目指していかなければならない。

#### 「改善・改革の方策」

同規模の大学と比較して遜色はなく、特にキリスト教関係図書をはじめ人文学関係の資料は豊富である。しかし、大学として新しく設置した学部学科の資料や入門書等の資料、専門的な資料はこれから重点的に収集していかなければならない。特に人間関係学部関係の資料は図書だけでなく、専門雑誌やデータベースを揃え利用指導を行なうことにより、学生や教員の論文検索や論文収集の援助をしていくことが必須である。これらは図書館システムを更新することにより、機能が追加され利用者へのサービスが向上し、利便性を図ることが可能になる。

予算面においては、小郡と統合後削減されたものの、今日まで一定の予算を確保している。資料費は同規模の大学と比較すると平均値より若干少なめであるが、大学図書館の使命である教育・学修支援のため、現状を維持することは必須である。予算を高い水準で安定的に確保するために図書館委員会で審・検討して要求していくことが必要と考える。

図書館の地域開放については、一般市民への知的・文化的空間を提供し、くつろぎのコミュニティ空間を公開していくことが課題である。2006 年度には大学図書館の一般公開に向けて、まずは近隣(春日市・大野城市・那珂川町)の公共図書館と連携を図るために協議し、地域住民の利用促進、相互協力を進めていく。

電子図書館については、メディアセンターと連携して多種多様な情報にアクセスできる環境や設備を整備していき、電子媒体の導入を進める一方、現在保有するデータベースについて、学内のどこからでもアクセスできる環境を整え、利用者への広報を進めていく。

中期目標達成のため、図書館内のレイアウト変更や検索PCの増設、雑誌・参考図書コーナーの拡張、授業支援図書等の各コーナーを改善している。また、電子図書館としての情報基盤整備については、メディアセンターとの連携を進めている。

表9-1 受け入れ冊数 \*図書・視聴覚資料の受け入れ冊数は、教員研究費で購入分を含む。

年 度	2002	2003	2004	2005
図書受け入れ (冊数)	3,986	3,961	5,014	5,029
視聴覚資料 (点数)	559	473	372	513
消耗図書 (冊数)	192	358	1,116	1,013

表9-2 資料費の推移

年 度	2002	2003	2004	2005
図書費 (千円)	30,000	23,500	23,700	25,148
消耗図書費 (千円)	500	600	900	900
新聞・雑誌費 (千円)	5,670	8,500	9,490	7,550

表9-3 雑誌受け入れ冊数

年 度	2002	2003	2004	2005
和雑誌 (点)	137	143	160	163
洋雑誌 (点)	171	164	158	103
合 計	308	307	318	266

表9-4 利用状況

年 度		2002	2003	2004	2005
入館者数 (人)		74,500	92,700	93,700	110,000
開館日数 (日)		216	228	240	254
貸出冊数 (冊)		24,000	26,000	29,000	34,700
1人当たりの貸出 (冊数)		7.9	8.1	7.6	13.8
文献複写 (枚)		42,148	20,294	12,975	12,200
相互	文献複写 (件)	345	433	988	863
協力	図書貸借 (件)	56	61	100	127

表9-5 2006年2月末の相互貸借の実績

貸出と借受	総数 (冊)
貸出 (大学図書館 → 福岡市)	1,067
借受 (福岡市 → 大学図書館)	335

表9-6 学外者利用状況

年 度	2003	2004	2005
入館者数 (人)	615	840	1,113
年間貸出数 (冊)	707	658	1,100

## ②学術情報へのアクセス

### 小項目

#### B群 学術情報の処理・提供システムの整備状況、国内外の他大学との協力の状況

##### 「現状分析」

##### (ア) 学術情報の処理

1997年より図書館システム「情報館」を導入している。毎年バージョンアップを重ね、機能も充実してきている。図書、雑誌、視聴覚資料など所蔵資料のほとんどの書誌所蔵データベースを構築し、それらを検索するためのオンライン所蔵目録（OPAC）を専用端末およびネットワーク上で提供している。国立情報学研究所（NII）のNACSIS-CATおよびNACSIS-ILLシステムの処理も可能である。

##### (イ) 学術情報の提供システム

学術情報を含む有用な情報源については、学内LANの図書館専用ページから利用できる。利用できる項目は次の通りである。

- i) 本学図書館の資料を検索（オンライン所蔵目録OPAC）
- ii) 他の図書館の資料を検索（NACSIS Webcat, WebcatPlus, 国立国会図書館、公共図書館など）
- iii) 現在出版・販売されている資料を検索（日本出版書籍協会、近隣の書店、日本の古本屋、政府刊行物など）
- iv) 論文・各種データなどを検索（CiNii 論文情報ナビゲータ、PsycINFO、MLA International Bibliography、福岡データWeb、日本の新聞社、世界の新聞社など）

その他、図書館内パソコンから検索できるデータベースとして、以下のものを提供している。

- ・論文情報検索データベース（MAGAZINE PLUS、ナレッジワーカー）
- ・新聞記事検索データベース（日経テレコン21、朝日新聞記事検索データベース「聞蔵」）
- ・辞典・事典データベース（ジャパンナレッジ）

また、図書館ホームページ上でオンライン所蔵目録（OPAC）を提供している。

##### (ウ) 国内外の他大学との協力

他大学との協力については、NACSIS-ILLシステムを利用してNACSIS-ILL参加機関と文献複写および貸借の相互協力を行なっている。2005年度にILL文献複写等料金相殺サービスに加入しており、加入前と比較して文献複写・貸借とも受付が増加している。

##### (a) 表9-7 依頼件数（福岡女学院大学図書館データ）

年 度	2002	2003	2004	2005
複写依頼件数	317	334	898	588
貸借依頼件数	40	36	43	21

(b) 表9-8 受付件数(福岡女学院大学図書館データ)

年 度	2002	2003	2004	2005
複写受付件数	28	117	90	287
貸借受付件数	24	48	57	106

#### 「点検・評価／長所と問題点」

現在の図書館システムは、導入後10年が経過しており、機能面、処理スピードなどが充分ではない。多言語対応、検索スピードの高速化が実現できるシステムへの更新が必要である。新システムは、利用者の情報へのアクセス環境の整備と利便性の向上を目指し、文献複写や貸借の申し込み、図書のリクエスト、予約、利用状況の確認などを利用者自身がWeb上で行なうことができる機能を搭載したものに更新する。

学術情報の提供については、学内からは学内LANを通して有用な情報源の利用ができるようになってきている。今後は、図書館のホームページを充実させポータル機能を持たせることにより、学外からも容易にアクセスできるように整備し、利用者の利便性を向上させる。また、電子ジャーナルやオンラインデータベースを導入し、学内からアクセスできる環境を整えていくことが課題であり、他大学の状況を調査し、メディアセンターと連携して進めていく。

他大学との相互協力については、依頼・受付とも概ね増加の傾向にあるが、2005年度は依頼件数が減少した。CiNii 論文情報ナビゲータの整備等により、他大学へ依頼せずに入手可能なものが増えていることが理由の一つと考えられる。2005年度にILL料金相殺サービスに加入したが、加入後は複写受付が増加しており、2004年度と比較すると、文献複写が90件から287件へ約3倍、貸借が57件から106件へ約2倍に増えている。

#### 「改善・改革の方策」

本学図書館は学習図書館、電子図書館、保存図書館としての三つの機能を充実させ、学術情報発信基地としての図書館構築を目標としている。電子図書館機能の充実のためにはメディアセンターとの連携が不可欠であり、図書館委員会からの代表者とメディアセンター運営委員会の代表者からなるプロジェクトチームを構成し、学内図書館ポータルサイトの設置、学術情報アクセスについての技術的な検討を行なう。このプロジェクトチームのなかで学内発の電子ジャーナルの可能性、教員が授業で利用しているオリジナル資料のデジタルデータ化、オンラインデータベースの設置についても議論する。

契約している有料データベースサイトについては、2006年6月より学内LANのすべての端末からアクセスできる環境を整える。そして2006年度に利用頻度の高いデータベースサイト、時間帯を調査し、データベースにアクセスできるクライアント数を確定し、契約内容を検討することになっている。同時に学生・教職員にとって有用だと思われる情報検索サイト、データベースサイトが他にないかという情報を利用者から求め、図書館委員会にて検討し、必要だと判断すれば、予算化し、試験的に利用できるように契約する。

また、学生がデータベースや情報源を活用した文献検索能力を習得できるように、情報検索指導を行なっていくとともに、教員と連携して、授業との関連を深め、図書館の利用促進を図っていくことが重要である。現在実施中の1年生への図書館オリエンテーションは、基本的に図書館司書が進めている。このオリエンテーションに専任教員の参加を呼びかけ、図書館利用についての教員の

理解を深めるように図書館委員会から教授会に働きかける。また3年・4年次の演習科目における特定の時間を図書館学習室で実施し、図書検索、情報検索の時間とすることができるように入材を整備する。

大学間の文献複写の依頼・受付については、NACSIS-ILL を利用しており、迅速に処理している。現在文献複写等の申し込みは用紙に記入するようになっているが、Web 上からの申し込みや進捗状況の確認ができる機能を搭載しかつ迅速な処理能力を備えた新システムに更新することにより、利便性を向上させるとともに、業務のさらなる迅速化、省力化を実現する。

また、多様化し増大している情報を効果的に提供する高度な図書館サービスを行なっていくためには、専門知識と経験を備えた司書の適正な配置が求められる。さらに情報技術を活用できるデジタルライブラリアンの育成と確保が今後の課題であり、そのための研修計画を立てて予算化し、職員が研鑽を積むことによりレベルアップを図っていく計画である。